

## 9. おわりに

執筆時点では、多数国間の安全保障対話を恒常的な国際機関を立ち上げて実施するという構想は机上のものである。このような構想はすでに引用した、NATO事務総長の発言のように、政治的意思、政治主導が必要であり、小野寺大臣は上述のように提案をなしている。

軍事衝突にエスカレートするリスクを防止するという、ウィン・ウインのための措置は、あらゆる関係国にとってプラスになるため、追求するに値する。ロシアのクリミア編入による新東西対立の時代への突入は、危機低減・安全保障対話のアジア太平洋地域での必要性を増大させている。

1975年8月、ヘルシンキ・プロセスを開始した記念すべき日に、ソ連のブレジネフ書記長は次のように述べている。「ヘルシンキ最終合意書をめぐるジュネーブにおける長引いた交渉は、勝者も敗者も生まず、それは、道理の勝利だった。万人が勝利した…地球上、平和と安全を愛するすべての人々にとっての利益だった。」(大意)<sup>(注1)</sup>

本稿で提示した構想は、さらに、練られる必要があり、本稿は外交交渉の手順や戦術を示すものではない。このような構想については、最も困難な状態に陥る恐れのある国、すなわち、日本が、自らの創意工夫で将来を切り開く必要があり、瞬間的に開いた好機の窓（window of opportunity）と呼ばれる歴史の好機をとらえなければならぬ。あるいは、好機を作り出し、窓をこじ開けなければならぬ場合もあるだろう。

今後の決して容易ではない道筋について、EUの経験から学べることは、常に、将来のビジョンについて議論をたたかわせ、合意された将来のビジョンに向かって加盟国が努力するという未来志向の仕事の仕方である。

再び、欧州に平和をもたらした構想を発案したジャン・モネ氏の講演からの引用文で、本稿を終えたい。

私の講演は、私がしばしば引用する話を持って終えることとしたい。この話は、今日、直面する困難に際し、我々が採るべき態度をよく物語っているからである。

成功に至るまで大失敗を常に重ねてきた政治家がその人生を終えるときがきた。彼は、その成功の秘訣は何かと聞かれたときに、次のように答えた。自分は若い時に、荒原で神に出会い、神は自分に、「あらゆる物事には終わりが来る。障害ですらも。」と述べたのであった。(大意)<sup>(注2)</sup>

(注)

1. <http://www.osce.org/who/43960>
2. Monnet, op.cit.